

自律型学習者を育てる

2024・4・8 校長 重枝一郎

同じ人間ではありますが、私と生徒のみなさんとでは育ってきた環境が違います。違いと一言でいっても何がどう違うのか？ とりあえず発達段階での現場の先生とお話したときに、特に印象に残っていることを話してみます。

まず、保幼の現場で聞いた話では、「ごっこ遊びの変化」がこの20数年前くらいから顕著になったということです。以前は、包丁、フライパンのようなもので物を作る「調理ごっこ」であったのが、物を並べるだけの「配膳ごっこ」に変化しているということです。プロセスを楽しむことより簡単に結果を得ることを求める体質になっていくのではと言っていました。

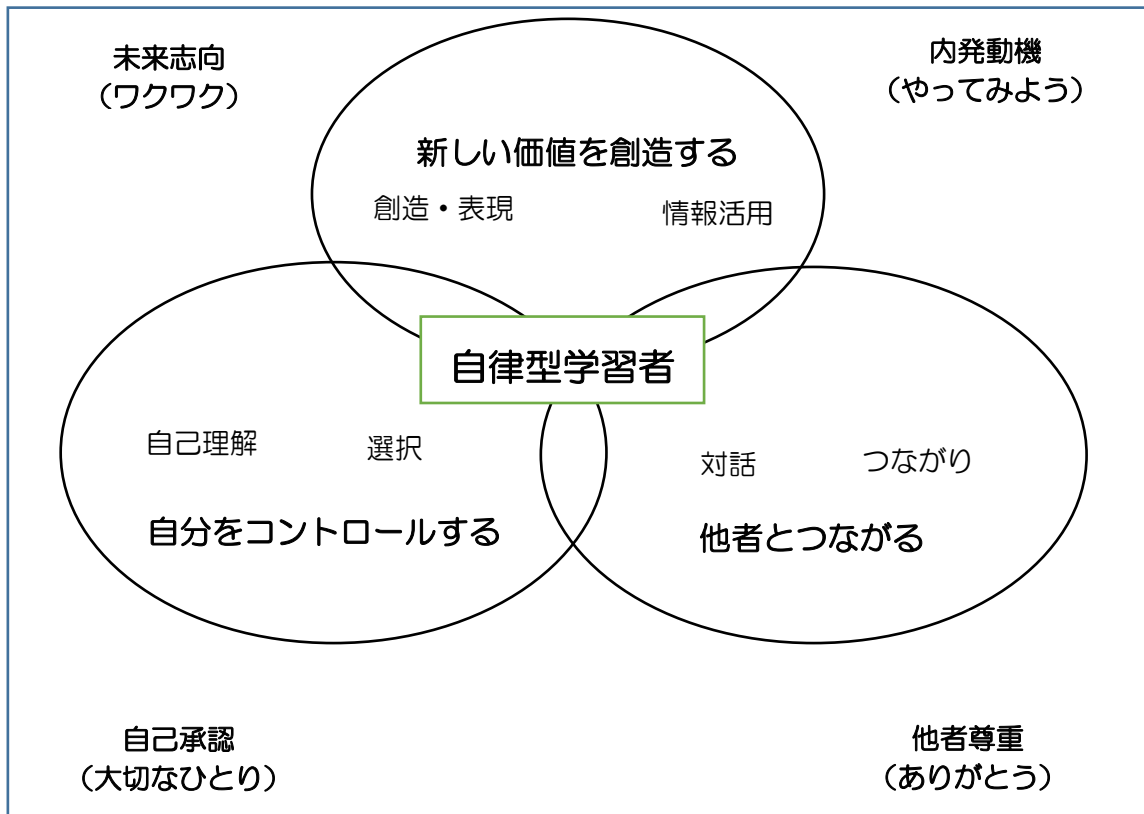
小学校では、6年間で劇的な変化があります。そのため1年生と6年生が大切という見方になるそうです。しかし、キャリア教育の視点が重視される昨今において、3、4年生というゴールデンエイジと言われる学年がとて重要視されているそうです。それは、他者との関係（クラスにどんな人がいるという他者意識が確立し始める発達段階）が認知でき、集団での授業の型は、この学年が基本となります。その後、この型を基本として進化していくのです。つまり、この3、4年生は、特に学習規律や学び方にその後大きな影響を及ぼすので、ここで型を教えなければ「型破り」も起こりえないし、ましては「形無し」といえる基本がない状況になる恐れがあるそうです。

また、地域の希薄化は以前から言われていることです。これは、縦の関係（親、教師）、横の関係（友だち）は今でも日常的にある関係です。しかし、自由で個別的な関係である、「ナナメの関係」は、人をグッと伸ばす力を秘めていると言われます。例えば、親や教師、友だちからの助言は素直に受け入れない年頃るとき、地域のソフトボールの監督の一言で行動に変化が見られたりするのはそのためです。また、少し年上の先輩などは、とても影響力のある「ナナメの関係」になるそうです。だからこの学校は中高大学とつながっているのでもとてもいいのです。

今、アクティブ・ラーニングという学び方が教育界ではキーワードとなっています。その学びの一つとして「対話的な学び」があります。私の実感としては昔の生徒（私の学生時代）より、話し合いは上手にできていると思います。ところが少し弱く感じるのは、話し合いながらの意思決定、つまり「決める」ができないことです。このことと思うことは、小3、4年の頃の遊びに関係しているような気がします。昔は秘密基地など、友だちと自分たちでルールなどを決めて遊んでいました。これは必然的に自分たちで話し合いながら「決める」経験をしています。放課後、野球をするときなど、自分たちで集合時間を決めて、場所を決めて、場所や人数に合わせた変則的なルールを決めて、よく遊んだものです。空き地のようなところで野球をするので、どれだけのことを自分たちで決めて遊んでいただろう。つまり、「決める経験」がたくさんあったということです。

自分で決めるという自律型の行動は、とにかく楽しいから努力も娯楽化していきます。今の時代のゲームもそういうことになります。自分で選択したりするから、うまくいなくても「次は頑張るぞ！」と前向きになります。授業を代表とする学校生活もそうであってほしいと思います。だから、学校教育の最上位の目標は「自律型学習者の育成」になるのです。

裏面に「自律型学習者を育てるグランドデザイン」を紹介します。



「自律型学習者」を育てるデザインの基盤となる4つのマインドを、このデザインのバックボーンで示しています。4つのマインドとは、「自己承認（大切なひとり）」「内発動機（やってみよう）」「他者尊重（ありがとう）」「未来志向（ワクワク）」です。

さて、毎年この年度初めの始業式で話していますが、本年度の私が大切にしたい思いを言葉にします。それは・・・

「成長はたし算」

みなさんにはいろいろなコミュニティに所属して、行動のレパートリーを増やしてほしいと思っています。つまり、主体的なチャレンジを増やして「経験」という財産を増やしてほしいと思っています。このことが、「たし算」であり、みなさんの「成長」につながっていきます。